

F. P. トスティの“Ideale”における「時差」： 作曲された時と演奏する時

著者	栗原 光太郎
雑誌名	東京音楽大学大学院博士後期課程 2018年度博士共同研究B報告書
ページ	29-41
発行年	2019-03-31
出版者	東京音楽大学
著者版フラグ	publisher
URL	http://id.nii.ac.jp/1300/00001278/

F. P. トスティの“Ideale”における「時差」

—作曲された時と演奏する時—

栗原 光太郎 (声楽)

1. はじめに

オペラや歌曲では、既に作られた音楽を歌手が歌う際に様々な変更を加えて歌うことがしばしば行われる。例えば、カルメロ・エッリーコ Carmelo Errico (1848-1892) の詩にフランチェスコ・パーオロ・トスティ Francesco Paolo Tosti (1846-1916) が曲を付けた《理想 Ideale》(1882) では、楽譜に書かれている音程や音価が歌手によって変えられているように思われる。

トスティは、エッリーコの詩に9曲に渡って曲を付けているが、《理想》が最も有名な曲である。この曲は、歌詞の内容から男声によって歌われることが多く、特にテノール歌手は音程を変える傾向があるということが今回の調査からわかった。

例えば、音程は曲の後半部分の高音を楽譜に書かれているよりも短三度高い音で歌う、音価は四分音符を長くして、付点気味に歌ったり、わざと少し早く音を歌い出す、装飾を入れるということ等である。一方で音程や音価を変えず、楽譜に忠実に歌う歌手もいる。

そこで本稿では作られてから演奏されるまでにどれほどの違いが生まれるのかということをも明らかにしたいと思う。すなわち、変える場合の歌手が全体としてどのような演奏する傾向があるか、そして、変えていない歌手の場合にはどのような特徴がみられるのかという視点である。

2. 詩について

Ideale	理想
1 Io ti seguì come iride di pace	私は空の道に沿って平和の虹としての
2 Lungo le vie del cielo:	あなたの後を付いて行きました:
3 Io ti seguì come un'amica face	私は夜のベールの中で親しい灯のような
4 De la notte nel velo.	あなたを追いました。
5 E ti sentii ne la luce, ne l'aria,	私は光の中、空気の中、そして花の香りの中に
6 Nel profumo dei fiori;	あなたを感じました。
7 E fu piena la stanza solitaria	そして孤独な部屋はあなたで、あなたの輝きで
8 Di te, dei tuoi splendori.	いっぱいでした。
9 In te rapito, al suon de la tua voce,	あなたの中に魅了されて、あなたの声の響きに
10 Lungamente sognai;	うっとりして、私は長い間夢を見ました。
11 E de la terra ogni affanno, ogni croce,	私はその日この世界のすべての苦悩と
12 In quel giorno scordai.	苦難を忘れてしまった。

- 13 Torna, caro ideal, torna un istante 戻ってきて、理想よ、一瞬でいいから戻ってきて、
 14 A sorridermi ancora, もう一度私に微笑むために。
 15 E a me risplenderà, nel tuo sembiante, そうすればあなたの姿の中で新しい暁が
 16 Una novella aurora. また私に輝いてくれるだろうから。

栗原光太郎訳

この曲は 11 音節詩行 *endecasillabo* と 7 音節詩行 *settenario* の交替の 4 行 4 詩連から成り、各詩連で韻を *AbAb* と踏んでいる形式的に整った歌詞を持っている。これに対してトスティは 1 から 8 行目と、9 から 16 行目の 2 連に分けて、A と A' の有節歌曲に近い形にしており、歌い出しの旋律形は一緒である。2 連目の最後で 16 行目の *una novella aurora* を繰り返す、その後 13 行目の *Torna, caro ideal, torna* のみを繰り返す。この 2 行は、特に歌手が変更を加える傾向の高い場所である。

3. 出版楽譜の比較

楽譜はリコルディ社が 1990 年から 2004 年にかけて出版した全 14 巻の『フランチェスコ・パーオロ・トスティの歌とピアノのためのロマンザの完全版 *Edizione completa delle romanze per canto e pianoforte di Francesco Paolo Tosti* (以下、「完全版」とする)』の第 4 巻 185 ページ (中声用) と、同完全版第 14 巻 159 ページに掲載されている初版原調版のファクシミリ版を用いた。

リコルディ社の出版物としては他に 4 種の出版楽譜を集めることができた。1 つ目は、1945 年の著作権表示を持つ低声用、2 つ目は 1982 年の著作権表示を持つ高声用、3 つ目は出版年不明の中声用であり、これら 3 種のピース楽譜については、初版のプレート番号を踏襲している。ただし、楽譜は明らかに、新たに作り直されている。

それに加えて、ピアノ独奏編曲のピース版 (東京音大図書館 OPAC においては 1995 年頃の出版と推定されている) も参考とした。

一方、リコルディ初版発行の 2 年後、1884 年に、アメリカのシャーマー社から中声用、低声用の 2 版が出版されており、その再版と思われる楽譜も用いた。

いずれも、付点の欠落、スタッカート、テヌート及びアクセントの有無、その他の曲想標語の違いなどの微妙な違いはあったものの、明らかな音の違い、リズムの違いは見られない。つまり、確定することは出来ないが、今回集めた歌手たちが演奏に使用した楽譜は、内容的にはほぼ同一のものであったと推定できる。従って、音の違いは楽譜の違いではなく、歌い方の違いであると考えられる。

4. 音程や音価を変える歌手と変えない歌手の違い

歌手がトスティの作曲した旋律に対してどのような変更を行ったかを明らかにしたい。つまり、旋律の一部を、楽譜に書かれているよりも高い音を歌ったり、音価を長くしたり、あるいは装飾音を入れることがどの程度あったのかということである。今回は20名の歌手の演奏を聴き、比較を行った（次頁、【表1】参照）。

4-1. 音程を変える歌手

先にも述べたように13行目と16行目は曲の末尾で繰り返されている。この2箇所は特に変更の多い場所であるので、34小節目（16行目）と41小節目（13行目）に注目する。この2箇所について、多くの歌手が変更を加えているからである。どのように変更を加えたかを明確にするため、該当する小節前後の楽譜を掲載する（【譜例1】）。

これを整理することでいくつかの傾向に分かれるのではないかと思われ、34小節目の音高・音価の変更の有無、35小節目の前打音をプラルトリラーに変更するかどうか、41小節目の音高・音価の変更について歌手ごとにまとめた（【表2】参照）。

【表1】

歌手名 (生没年)	国籍・声種・録音年	調性	番号 ^注	備考
Aramburo, Antonio (1840-1912)	ESP・Ten.・1901	A	1139376	
De Lucia, Fernando (1860-1925)	ITA・Ten.・1902	A	336881	2番のみ
Caruso, Enrico (1873-1921)	ITA・Ten.・1906	A	26447	
Martinelli, Giovanni (1885-1969)	ITA・Ten.・1915	A	333928	
Tauber, Richard (1891-1948)	AUT・Ten.・1928	A	3720467	ドイツ語詞
Schipa, Tito (1888-1965)	ITA・Ten.・1930	H	337341	
Björling, Jussi (1911-1960)	SWE・Ten.・1937	A	339550	
Gobbi, Tito (1913-1984)	ITA・Bar.・1942	F	3111686	
Valdengo, Giuseppe (1914-2007)	ITA・Bar.・1946	G	3242888	
Gigli, Beniamino (1890-1957)	ITA・Ten.・1950	A	4352575	
Ponselle, Rosa (1897-1981)	USA・Sop.・1954	A	1067959	
Di Stefano, Giuseppe (1921-2008)	ITA・Ten.・1961	A	4169213	
Sutherland, Joan (1926-2010)	AUS・Sop.・1962	A	6285743	
Bruson, Renato (1936-)	ITA・Bar.・1994	Ges	352094	
市原太朗 (1950-)	JPN・Ten.・1995	A	3201730	
Tokody, Ilona (1953-)	HUN・Sop.・1998	A	4811504	
Hyldgaard, Tove (1942-)	DEN・Sop.・2006	A	505482	
Secco, Stefano (1973-)	ITA・Ten.・2009	A	428475	
Yushmanov, Vitaly (不明)	RUS・Bar.・2014	F	4363152	
Menghini, Maura (不明)	ITA・Sop.・2015	G	5321553	トステイ協会 会関与

注：いずれも Naxos の音源を用いたなのでその個別番号を示した。

【譜例1】《理想 Ideale》32小節目から42小節目

32 *rit.* *cres.*

me ri-splen-de-rà nel tuo sem-bian- - te U-na no-vel-l'au-

cres. a poco a poco
col canto

34 *f rit.*

-ro - - - ra, u-na no-vel-la au-ro- - - ra.

f rit. col canto *col canto*

f *p*

37 *p*

Tor - - na, caro i-de-al,

cres. *cres.* *dim. sempre*

40 *pp* *PPP parlato*

tor - - - na tor - - - na.

rit. PPP *PPP*

【表 2】

- 【音高】 それぞれの欄の上に歌詞と小節数を記載
 音高の変更有 = 変更している音程—更している音程
 音価の変更無 = 変更なしと記載
- 【延長】 音価の延長有 = 有
 音価の延長無 = 無
- 【前打音の変更】 変更有の場合 = 装飾音の名称
 変更無の場合 = 無

歌手名	una novella aurora (34)		una novella aurora (35)		torna (40)	
	音高	延長	延長	前打音	音高	延長
Aramburo, Antonio	変更なし	有	無	プラルトリラー	E2—E2	有
De Lucia, Fernando	Fis2—A2—A1	有	無	プラルトリラー	E2—A2	有
Caruso, Enrico	Fis2—A2	有	有	プラルトリラー	E2—A2	有
Martinelli, Giovanni	Fis2—A2	有	無	プラルトリラー	変更なし	有
Tauber, Richard	変更なし	無	無	変更なし	E2 (全)	無
Schipa, Tito	変更なし	無	無	変更なし	Fis2—Fis2	有
Björling, Jussi	Fis2—A2	有	無	プラルトリラー	E2—E2	有
Gobbi, Tito	変更なし	有	有	変更なし	C2—C2	無
Valdengo, Giuseppe	E2—G2	有	有	プラルトリラー	変更なし	有
Gigli, Beniamino	Fis2—A2	有	有	プラルトリラー	E2—E2	有
Ponselle, Rosa	変更なし	無	無	変更なし	変更なし	有
Di Stefano, Giuseppe	Fis2—A2	有	有	プラルトリラー	E2—E2	有
Sutherland, Joan	変更なし	無	無	変更なし	変更なし	無
Bruson, Renato	変更なし	無	有	プラルトリラー	変更なし	無
市原太朗	Fis2—A2	有	無	変更なし	変更なし	無
Tokody, Ilona	変更なし	有	無	プラルトリラー	変更なし	有
Hyldgaard, Tove	変更なし	有	有	プラルトリラー	E2—E2	有
Secco, Stefano	Fis2—A2	有	無	変更なし	E2—A2	有
Yushmanov, Vitaly	D2—F2	有	無	変更なし	変更なし	無
Menghini, Maura	変更なし	無	無	変更なし	変更なし	無
計	10	14	7	11	11	13

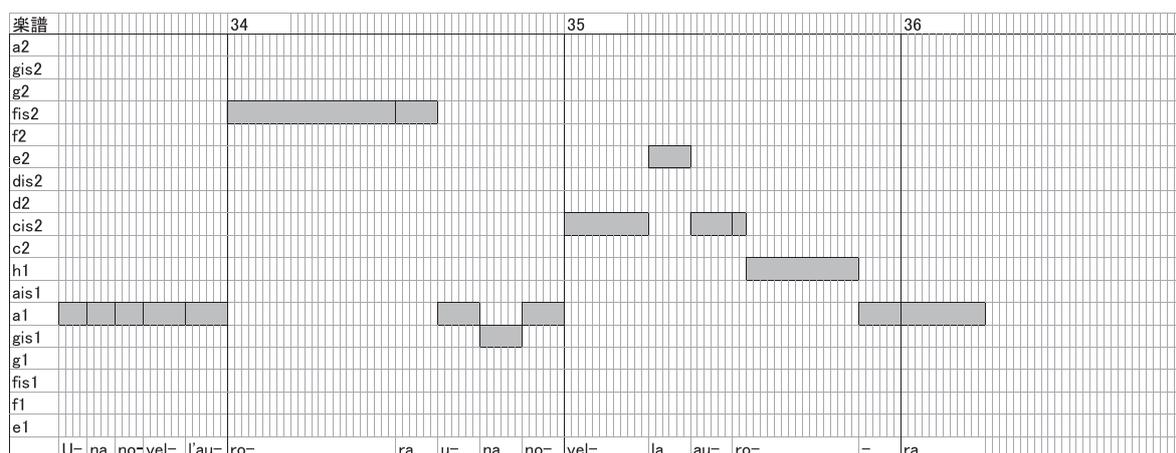
変更を加える歌手は、音程を変えるだけでなく音価も延長することが多い。そこで、音価の延長を明確化するために五線譜をグラフ譜表に書き改めた。【グラフ1】は、34小節目から36小節目までの原曲をそのまま書き改めたものである。このグラフは縦軸を音高、横軸を音価として設定している。音高は1行を半音とし、左にドイツ音名を示した。音価については、1拍（4分音符）を12セルとする。【グラフ1】は原曲を書き改めたものであるため、音価の延長は存在しないが、【グラフ2】と【グラフ3】はそれぞれの歌手がどの様に歌っているかを表したものであるため、音価の延長に合わせて1小節の幅を4拍以上に拡大している。

【グラフ1】《理想 Ideale》34小節目から36小節目

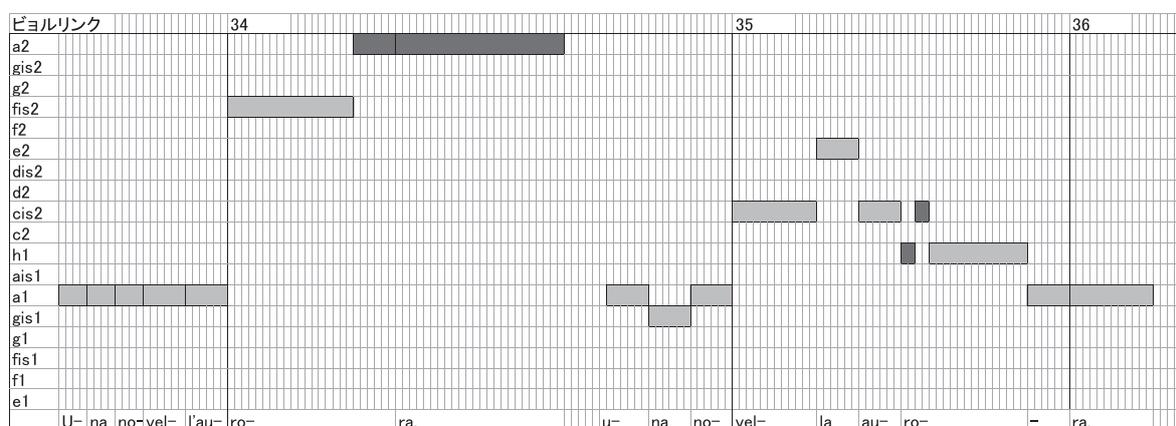
【ドイツ音名】表の左に a2 から e1 まで。

【小節数】表の上部に左から 34, 35, 36 小節の順。

【歌詞】該当部分の歌詞を表の下部に記載。



【グラフ2】《理想 Ideale》ビョルリンクによる歌唱・34小節目から36小節目

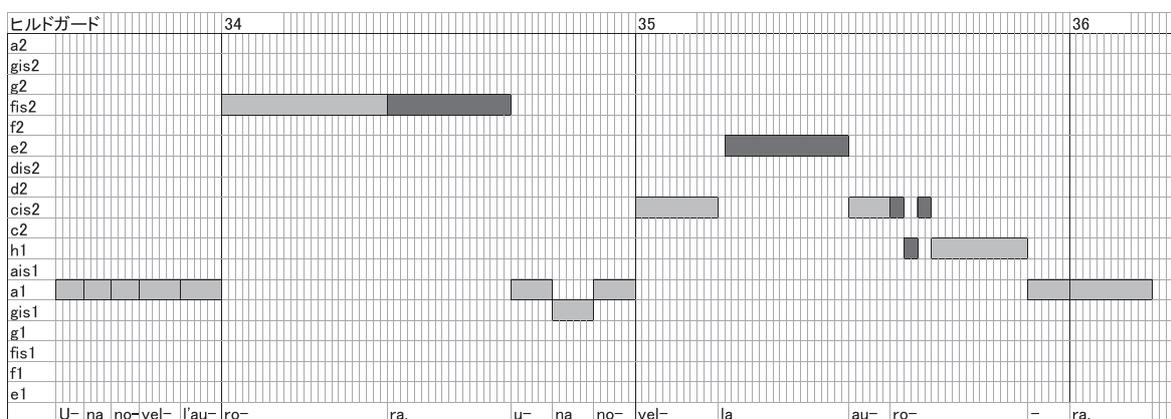


【グラフ2】はビョルリンクの歌唱法をグラフ譜表で表現したものである。【グラフ1】

の原曲から変更されている箇所は濃色で示している。

まず 34 小節目を見てみよう。-rora の部分、-ro- の母音を伸ばしたまま音を短 3 度上げている。-ra も同じ音高で保ち、una から本来の高さにする。また、-ra は本来半拍の音価であるが、これを 2 拍伸ばし、その間、伴奏は合わせて伸ばす。このような歌手は他に、デ・ルチア、カルソー、マルティネッリ、ヴァルデンゴ、ジーリ、ディ・ステファノ、市原、セッコ、ユシュマノフである。-ro- の母音を伸ばしたまま音を短 3 度上げる方法がビョルリンクと同じなのはデ・ルチア、カルソー、市原、セッコである。マルティネッリ、ヴァルデンゴ、ジーリ、ディ・ステファノ、ユシュマノフも上げているが、上げるリズムが異なる。ビョルリンクは -ro- の音価を上げる前に 1 拍半、上げた後の音価を半拍取るが、ディ・ステファノ、ジーリ、マルティネッリは -ro- の音価を上げる前に 1.75 拍、上げた後の音価を 0.25 拍取る。ヴァルデンゴは、-ro- の音価を上げる前に約 1.33 拍、上げた後の音価を約 0.66 拍取る。ユシュマノフは -ro- の音価を上げる前に 1 拍半、上げた後の音価を半拍だがテヌート気味に取る。さらに、ビョルリンクは 35 小節目の装飾をプラルトリラーに変えているが同じように変えているのはカルソー、マルティネッリ、ヴァルデンゴである。歌手によって装飾音の速さが多少違う。

【グラフ 3】《理想 Ideale》ヒルドガードによる歌唱・34 小節目から 36 小節目



【グラフ 3】にヒルドガードによる歌唱法を示した。彼女は、-rora の部分で音高を変えていない。また、-ra は音価を変え、1 拍半伸ばす。その間、伴奏は 3 連符の数を増やし、歌の進行に合わせて次の部分の伴奏を展開する。また、35 小節目も本来は半拍であるが、これを 1 拍半伸ばし、その間、伴奏は Col canto する。このような歌手は他にアランブーロ、タウバー、スキーバ、ゴッピ、ポンセル、サザーランド、ブルゾン、トコディ、メンギーニである。さらに、ヒルドガードは 35 小節目の装飾をプラルトリラーに変えており、同じように変えているのはブルゾン、トコディである。

今回調べた 20 名の中で 34、35 小節について楽譜通りに歌っていたのはタウバー、スキ

ーパ、ポンセル、サザーランド、メンギーニの5名であった。

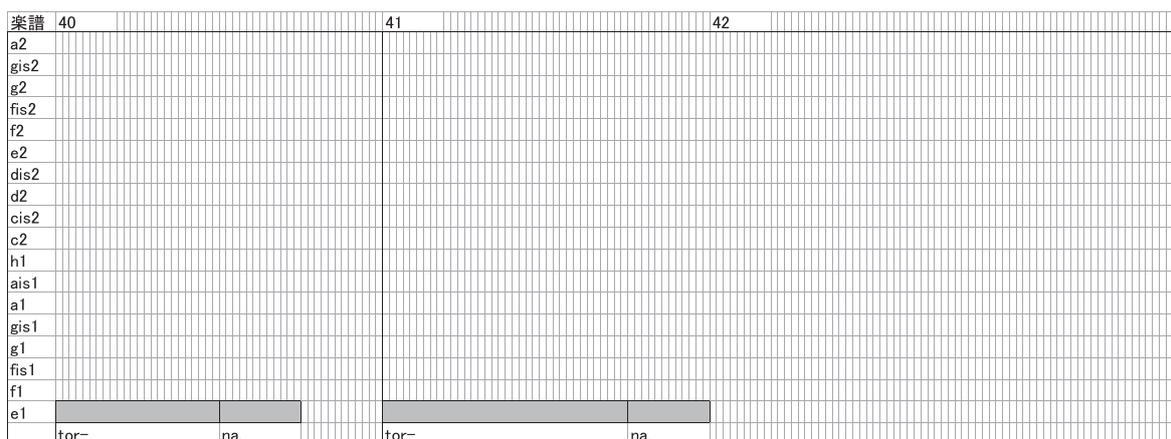
40小節目から42小節目までの原曲をグラフ譜表であらわしたのが【グラフ4】である。

【グラフ4】《理想 Ideale》40小節目から42小節目

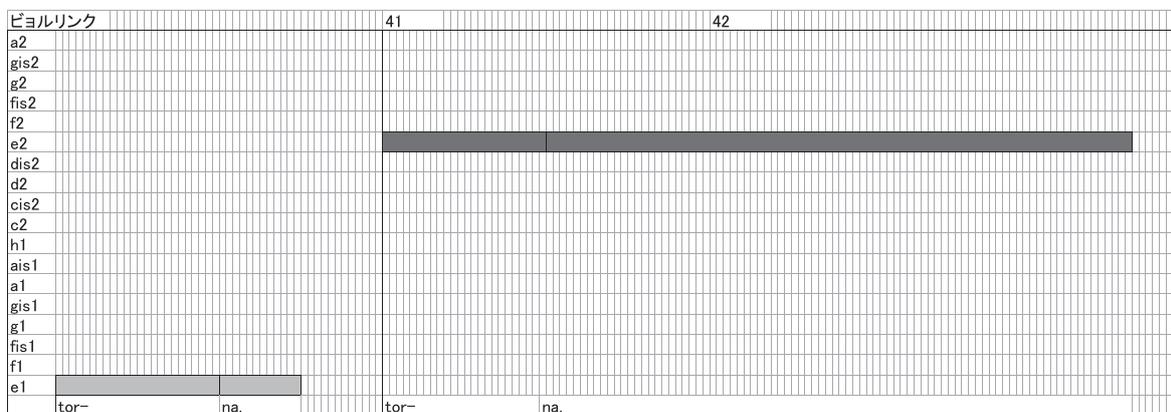
【ドイツ音名】表の左にa2からe1まで。

【小節数】表の上部に40, 41, 42の順。

【歌詞】該当部分の歌詞を表の下部に記載。



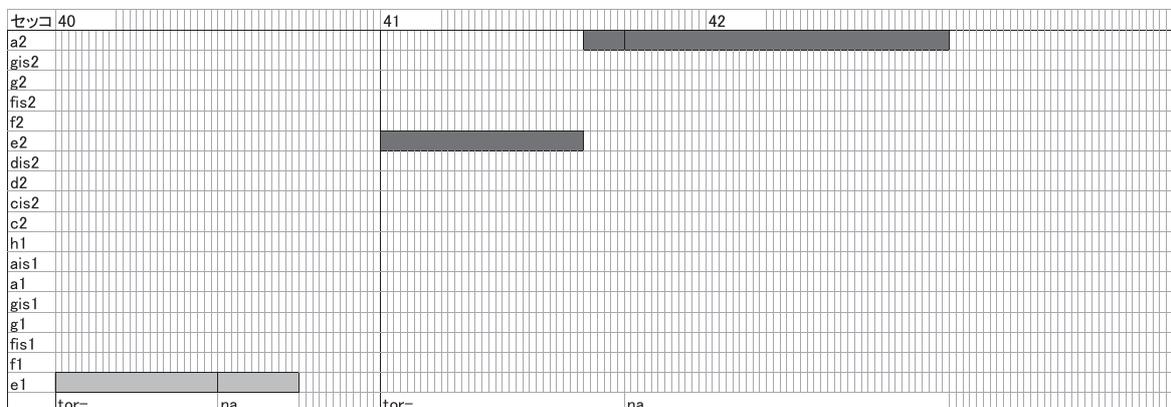
【グラフ5】《理想 Ideale》ビョルリンクによる歌唱・40小節目から42小節目



【グラフ5】はビョルリンクの歌唱法を示したものである。彼は41小節目にある torna について音高を変更し、オクターブ上げている。また、tor- は本来3拍の音価であるが、これを2拍とし、本来1拍の音価である -na を5拍半にまで伸ばす。このような歌手は他にアランプーロ、デ・ルチア、カルーソー、タウバー、スキーパ、ゴッビ、ヒルドガード、セッコである。その上げ方がビョルリンクと同じなのはアランプーロ、スキーパ、ゴッビ、ヒルドガードである。

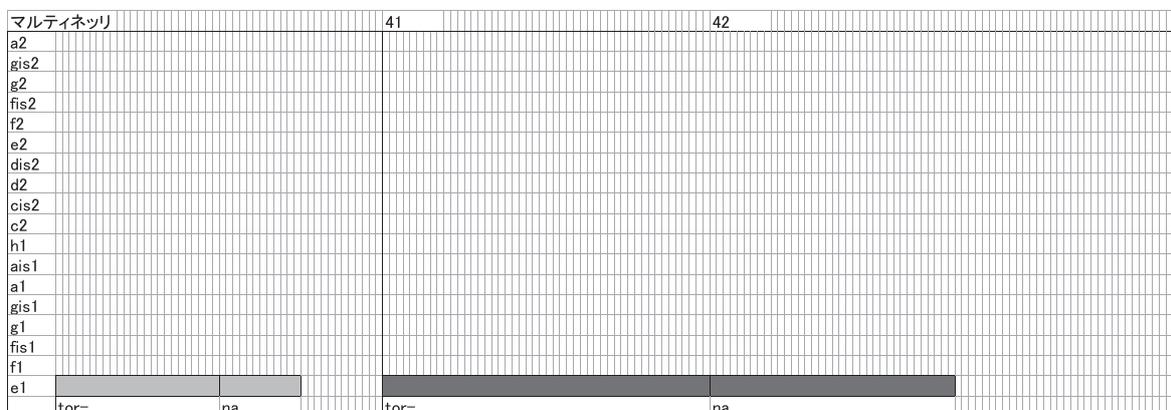
さらにセッコは -tor-3 拍目の裏で音程を完全4度上げ、-na は同じ音で4拍伸ばしている。このような歌い方は今回の20名の中では彼だけである。

【グラフ6】《理想 Ideale》セッコによる歌唱・40小節目から42小節目



【グラフ7】はマルティネッリの歌唱法である。彼は torna の音高を変えずに音価だけ変えている。このような歌手は他にブルゾンがいる。

【グラフ7】《理想 Ideale》マルティネッリによる歌唱・40小節目から42小節目



尚、サザーランド、ブルゾン、市原、ユシュマノフ、メンギーニの5名はこの箇所について音高も音価も変えていない。

今回注目したのが34小節目の音高と音価、35小節目の音価とプラルトリラー、40小節目の音高と音価、計6箇所である。変える可能性が一番高いのが34小節目の音価で、20名中14名変えている。それに対して変える可能性が一番低いのは35小節目の音価で、7名だけである。

34小節目、40小節目両方とも音程を変えている人は、音価も延長していることが多い。

ただし、2名だけ例外がいる。タウバーとゴッピは40小節目について音程はオクターブ上げているが、音の延長は行っていない。それ以外の人間は、音高を動かした場合には必ず音価も延長している。しかし、音価を延長する人が、全て音高を変更するとは限らない。35小節目については、7名が音価の延長を行っているが、ここで音高の変更を行っているものはない。この注目した6箇所すべてについて変更しているのが、カルソー、ジエリ、ディ・ステファノの3名で、注目箇所のうちの5箇所についてはデ・ルチアとヴァルデンゴの2名が変更を行っている。一切の変更を加えていないサザーランド、メンギーニの2名は、いずれも20世紀後半以降に活躍した人間であるが、変更を加えた歌唱に時代による変化は見られない。

4-2. 音程を変えない歌手

前述のように今回注目した6箇所について、一切変更を加えていないのはサザーランドと、メンギーニの2名だけであった。ベルカント・ソプラノとしてオペラで活躍したサザーランドと、トスティ協会の委嘱を受けて仕事をしているメンギーニが変更を加えていないことは興味深い。また、タウバー、スキーパ、ブルゾン、市原、ユシュマノフの5名も、変更を加える箇所は他よりも少ない。しかし一方で、トスティが指定するブレスの位置を各々変更したり、a tempoの位置を変更するなどして、フレーズの歌い方を大切にしているように思われる。このような歌い方をしているのはタウバー、スキーパを除けば、比較的新しい時代の人達である。

4-3. 変更に対する伴奏

歌手が音程を変えても、伴奏者がそれに対応する必要は無いが、歌手が音価の延長を行った場合、伴奏者は何らかの対応が求められる。今回の20件については原曲通りピアノ伴奏の場合と、オーケストラ伴奏に編曲している場合があり、対応方法も様々ではあるが、歌手が音を延長した箇所で伴奏を止めることや、高音部にある3連符の数を増やして音を鳴らし続けることもある。つまり伴奏部も音価の延長に対応していることになる。

5. おわりに

トスティがエッリーコの詩に曲を付けた《理想》は、男声歌手、あるいはソプラノ歌手による演奏録音が残っており、音程の変更はテノール歌手によって変えられることが多いが、ソプラノ歌手やバリトン歌手も多少の変更を行っている。

今回注目した6箇所に関して言うならば、音を高音に上げる、音価を延長する、装飾音を変更するという3通りの変更方法が見られたが、その組み合わせや具体的な方法は様々であった。伴奏部も音価の延長には対応している。

これ以外の箇所でもリズムの変更やテンポの変化、テヌート気味の歌い方、ブレスの位

置の変更などが見られる。先ほど楽譜通りに歌っているとして挙げたサザーランド、メンギーニの2名についても、控えめにはあるが、このような変化をつけている。

これらの歌い方が、楽譜の版に由来するものであるかどうかということも調べたが、今回集めることの出来た楽譜は初版譜とほぼ同一のものばかりであり、楽譜に由来するというよりも個々の歌手の解釈によるものと考えることが出来る。さらに伴奏部についても歌手が行う音価の延長やテンポの変化に対応する必要がある、歌手と同様、リズムを変更する場合もあった。

今回調べたのは20名だけであったが、誰一人として同じ歌い方をしている者はいない。1つの曲が作られてから演奏されるにあたって音楽に様々な変更が加えられるということを変更して確認することができた。今後、より多くの曲について、そしてより多くの歌手について、比較検討する機会を持ちたいと思う。

参考文献

栗原光太郎

2015 『F.P. トスティと G. ダンヌンツィオの共同作業について—《アマランタの4つの歌》を中心に—』(東京:東京音楽大学・修士論文)

2017 「F.P. トスティ 歌曲における詩と音楽のリズムについて」

『2017年度博士共同研究 A 報告書《リズム×創造性》』(東京:東京音楽大学)

サンヴィターレ, フランチェスコ Sanvitale, Francesco

2010 『トスティ ある人生の歌 フランチェスコ・パーオロ・トスティの生涯と作品』長神悟 監修 森田学 訳 (東京:東京堂出版) [Il canto di una vita. (Torino: EDT, 1996)]

水谷彰良

2002 「トスティ, フランチェスコ」『新編 音楽中辞典』(東京:音楽之友社) 452

Miscia, Gianfranco

2009 *My memories.* (Ortona: Direzione generale per gli archivi)

嶺 貞子・森田学

2009 『イタリアのオペラと歌曲を知る 12章』(東京:東京堂出版)

村田千尋

2002 「歌曲」『新編 音楽中辞典』(東京:音楽之友社) 133

村松真理子

2015 『ダンヌンツィオに夢中だった頃』

(東京:東京大学教養学部イタリア地中海研究コース)

山口佳恵子・森田学

2014 『トスティ 歌曲 (訳詩-1) 歌と詩』(奈良:日本トスティ協会)

使用楽譜

Tosti, Francesco Paolo.

- 1884 My ideal = Ideale: melodia M.-Sop.
(New York: G. Schirmer)
- 1884 My ideal = Ideale: melodia Alto.
(New York: G. Schirmer)
- 1945 Ideale: melodia per canto e pianoforte (C-B)
(Milano: G. Ricordi & C.)
- 1982 Ideale: melodia per canto e pianoforte (soprano-tenore)
(Milano: G. Ricordi & C.)
- 1993 Romanze su Testi italiani: 1a raccolta, 1873-1882
(Milano: BMG Publications S. r. l.)
- 1995 Le più belle romanze della belle époque: canto e pianoforte
(Milano: G. Ricordi & C.)
- 2004 Miscellanea: romanze di autori vari, su testi anonimi, inedite
(Milano: BMG Publications S. r. l.)
- 2014 トステイ歌曲集 (1) [新版] (東京: 全音楽譜出版)
- 年不明 Ideale: melodia per canto e pianoforte (Mezzo-Sop. O Bar.)
(Milano: G. Ricordi & C.)

使用音源

<http://ml.naxos.jp/work/1139376>
<http://ml.naxos.jp/work/336881>
<http://ml.naxos.jp/work/829902>
<http://ml.naxos.jp/work/26447>
<http://ml.naxos.jp/work/803526>
<http://ml.naxos.jp/work/305384>
<http://ml.naxos.jp/work/333928>
<http://ml.naxos.jp/work/1147335>
<http://ml.naxos.jp/work/3720467>
<http://ml.naxos.jp/work/337341>
<http://ml.naxos.jp/work/339550>
<http://ml.naxos.jp/work/3111686>
<http://ml.naxos.jp/work/3242888>
<http://ml.naxos.jp/work/4352575>
<http://ml.naxos.jp/work/1067959>
<http://ml.naxos.jp/work/4169213>
<http://ml.naxos.jp/work/6285743>
<http://ml.naxos.jp/work/352094>
<http://ml.naxos.jp/work/3201730>
<http://ml.naxos.jp/work/4811504>
<http://ml.naxos.jp/work/505482>
<http://ml.naxos.jp/work/428475>
<http://ml.naxos.jp/work/4363152>
<http://ml.naxos.jp/work/5321553>